

2022年4月24日 午前礼拝
「真理の霊と偽りの霊」 説教者:堺希望伝道師

【引用聖句】 **Iヨハネ 4:1~6**

- 1 愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。
- 2 人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。
- 3 イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。
- 4 子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。
- 5 彼らはこの世の者です。ですから、この世のことばを語り、この世もまた彼らの言うことに耳を傾けます。
- 6 私たちは神から出た者です。神を知っている者は、私たちの言うことに耳を傾け、神から出ていない者は、私たちの言うことに耳を貸しません。私たちはこれで心理の霊と偽りの霊とを見分けます。

【説教要約】

今回は、クリスチャンが進む成長の道について見ました。

神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。

神の命令を守る者は神のうちにおり、神もまたその人のうちにおられます。神が私たちのうちにおられるということは、神が私たちに与えてくださった御霊によって知るので。

Iヨハネ 3:23-24

イエス様を信じ、イエス様が私を愛してくださったように、互いに愛し合う。これが神様のみこころです。その中にいれば、木に繋がった枝のように私たちはイエス様によって成長し、神様の御栄光のために用いられていくのです。最初から最後まで、イエス様の内にとどまるのが、唯一大切なことなのです。

今日から4章に入ります。イエス様の内にとどまるために起きる戦いと、勝ち方について今日は見ていきます。

① **神にとどまり続けるために**

愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです。

Iヨハネ 4:1

以前、少しだけ説明したことですが、この I ヨハネを最初に受け取った教会がありました。この手紙は直接的にはその教会に宛てて書かれているのです。

この教会では大変な事件が起きたばかりでした。教会の教師が、または牧師が聖書とは違う教えを教え、イエス様を信じる人たちを馬鹿にし、教会を出て行ったという事件です。教会の中に、ここで言われている偽預言者、つまり「自分はクリスチャンだ」と言っているが実はクリスチャンではない教師たちがいたのです。

イエス様にとどまるためには、偽物の教えから自分を守らなければならない時があります。そのためには、何がイエス様に繋がっている教えで、何が偽物の教えなのかを見極めなければなりません。

福音書などに出てくるパリサイ人は、イエス様の敵のようなイメージがあります。しかし、社会の中でパリサイ人はとても善良で神に熱心な人々であったことが分かっています。だから社会の中で聖書の教師を務められていました。私たちも、優しく神様に熱心な人が側にいたらその人に教えて欲しいと思ってしまうのではないのでしょうか。しかしイエス様は、

わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは人々から天の御国をさえぎっているのです。自分も入らず、入ろうとしている人々をも入らせません。

わざわいだ。偽善の律法学者、パリサイ人。おまえたちは白く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいです。そのように、おまえたちも外側は人に正しく見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。

マタイ 23 : 13、27-28

彼らの行ないは偽善であると厳しく批判したのです。天国への道をさえぎっているのだと。これ以上ない批判です。パウロは彼らについて証しています。

私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしします。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。

というのは、彼らは神の義を知らず、自分自身の義を立てようとして、神の義に従わなかったからです。

ローマ 10 : 2-3

彼らは熱心だけれども、正しい場所にとどまっていないので間違っているということです。

現代でも、私たちを惑わす教えはあります。それを見極めて、イエス様にとどまるのが大切なのです。

ここまで緊張ばかりするような話をしてきましたが、皆さん安心してください。実は、正しい教えと間違った教えを見極めるポイントはたった二つなのです。

②主人は誰か

人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。

イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。

子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。

Iヨハネ4:2-4

一つのポイントは、イエス様を主と告白するかどうかです。何を当たり前のことを、と思われられるかもしれませんが、本当にこの点が分水嶺なのです。

このIヨハネが書かれた時に存在した偽の教えは、ケリントス主義というものでした。イエス様は神の子ではなくただの人間で、神様の霊が一時的に宿っただけだという、恐らく皆さんが聞いた事のないような教えが中心でした。

現代、キリスト教といっても無数の教派が存在します。それぞれ、歴史や聖書の信じ方が多少異なっているのでたくさんの教派が存在します。それでも聖書が言っている通り、イエス様が主であると信じているのでキリスト教なのです。

しかし、異端と呼ばれているグループがあります。彼らはキリスト教に含まれません。自称キリスト教です。何が他のキリスト教と違うのかというと、まさに「イエス様を主と告白するかどうか」なのです。

エホバの証人は、イエス様を天使ミカエルだと言います。人となって来られた神の子ではないのです。

統一教会（現在は統一家庭連合と言う）は、創始者の文鮮明が「私はキリストの生まれ変わりだ」と自称します。イエス様ではなく彼を信じるのです。

モルモン教は、イエス様はたくさんいる神々の一人で、人間も神になれると信じます。彼らは皆、「自分はクリスチャンだ」と言います。

間違った教えは捜せばいくらでもあるので、これくらいにします。大事なのはただ、イエス様が主であると信じているかどうか、なのです。

パリサイ人たちの間違いも、まさにこの点でした。イエス様を抜きにして熱心であっても、その熱心は神様と繋がってはいないのです。それは、反キリストの霊、つまり悪魔から来ているのです。

イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。

ヨハネ 14：6

人を決定的に分けるのは、本当にこの一点です。イエス様が自分の救い主でなければ、その人は神様とは繋がっていません。イエス様が救い主であるなら、どんな人も神様と繋がっています。永遠のいのちの有無が、ただこの一点で別れるのです。この点で信仰を見極めることを妥協してはいけません。悪魔は、それを惑わそうとするからです。

実際に日本であった話をします。

第二次世界大戦の時、大日本帝国は宗教団体法という法律を作りました。これは、一つの宗派は一つの団体にまとまらなければならないという法律でした。一つにしてしまえば、国が管理しやすくなるからです。

キリスト教も一つの団体にまとめられました。教会には国の監視が付き、教えは徐々に変化していきました。

すべての教えに「皇国の道に則り」と前提が付き、国と天皇のために教会は存在すると告白するようになりました。代表は伊勢神宮にお参りをするようになりました。イエス様の前に天皇が来てしまったのです。イエス様だけが主だと告白すれば、国から迫害を受けてしまうからです。

そして、日本の植民地にある教会に神社参拝を強制し、「天皇に尽くし、日本の勝利の為に尽くすように」と文書を出しました。

当時の方々が覚えた恐怖や国との戦いの重みを、私は十分に知ることなどできませんが、イエス様が主でなくなったことは確かです。そして、教会がキリストのからだでなくなっていました。

イエス様を主と告白することが、どれほど重要であるかということです。私たち一人一人も同じように、イエス様を主と告白する戦いをしています。悪魔はこの部分に誘惑と攻撃をしてくるのです。なぜなら、イエス様を主としなくなれば、私たちが神様に頼ることはなくなり、神様の御栄光は現わされなくなるからです。

時に応じて、「私の主人は誰か？」と自分に問いかけることが必要です。「あなたにとってイエス様はどういうお方ですか？」と信仰を確かめることが必要です。そうすれば、その人の信仰が分かります。

イエス様を境にして分かれるのは、神から出ているか世から出ているかの違いです。4節で「彼らに勝った」と言われているのは、Iヨハネの教会が「イエス様が主だ」という告白に立ち続けたということです。その力は人から出たのではなく、ご聖霊から出て悪魔に勝ったのです。

「わたしは、あなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。

黙示録 3 : 8

これは黙示録でフィラデルフィヤの教会にイエス様がかけているおことばです。たとえ「少しばかりの力」で何とかイエス様にとどまっている状態だったとしても、イエス様はそれをご存知で、大きな祝福を下さるのです。

③御霊は聖書に従う

彼らはこの世の者です。ですから、この世のことばを語り、この世もまた彼らの言うことに耳を傾けます。

私たちは神から出た者です。神を知っている者は、私たちの言うことに耳を傾け、神から出ていない者は、私たちの言うことに耳を貸しません。私たちはこれで真理の霊と偽りの霊とを見分けます。

Iヨハネ 4 : 5-6

神様から出ている真理の霊と、悪魔から出ている偽りの霊を見分ける二つ目のポイントは、聖書に聞き従うかどうかです。

世の中のあらゆる教えは、どこまで行っても世の中に属するのです。世の人が世で見たことを話しているからです。

しかしみことばは、神様が上から教えてくださったものです。この聖書以外に、本当の神様が語ったおことばは存在しないのです。その中心はイエス様です。

御霊はわたしの栄光を現します。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。

ヨハネ 16 : 14

本当の教えは御霊に導かれているので、いつもイエス様の御栄光を現します。しかし世の教えは自分の栄光を現します。世の人は、世に留まりたいのみことばに耳を傾けられません。同じ世の中から出た教えに心惹かれるのですが、その教えに出口はないのです。

みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言うため、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。

IIテモテ 4 : 2-4

一方、御霊に導かれる人は聖書の教えに耳を傾けます。聖書を書かれた御霊と同じ御霊がクリスチャンの心には宿っているので、聖書の教えを聞き分けて聖書に従うのです。

補足ですが6節に「神を知っている者は私たちの言うことを聞き」とあります。この「私たち」というのはイエス様に直接お会いし任命された使徒たちのことです。ヨハネはその一人です。当時はまだ聖書は完成しておらず、使徒がいたので直接教えを受けられたのです。現在、神様のみことばは御霊によって新約聖書にまとめられています。

キリスト教の教派は、それぞれ聖書に従って何をどう信じているか「信仰告白」とか「信仰箇条」というものを文章で持っています。私たちが属するグループはJBBFと言いますが、私が最もこのグループで尊敬していることは、信仰箇条の序文にこう書いてあることです。

元来わたしたちは、「聖書が信条である」という伝統的立場に強い共感を覚え、固定化した成文の「信条」というものを持たない。それゆえ、今ここに告白する信仰箇条は、聖書を離れてわたしたちを規定するものではない。ましてや聖書を越えて立つものではない。

また、聖書に内包された豊かな富を、すべて汲みつくしている、というものでもない。ただ、信仰の先輩たちが長い歴史の中で引き継いできたものを、わたしたちも引き継ぐ、ということを表示し、それをわたしたちは共有しているということを確認するものである。

簡単に言いますと、「何を信じているのか述べている信仰箇条を持っているけれども、どんな時でも聖書の方が上にある」ということです。神のおことばなので聖書は完全です。しかし私たちは、どんなに手を尽くしても間違いやすい人間に過ぎないと認めているのです。だから、どんな時でも自分より聖書が上であるという宣言です。

私たちも、一人一人がイエス様との交わりを毎日をもって、聖書を味わうことが大切です。御霊が、みこころを一人一人に教えてください。

最後に、いつもの暗唱聖句を一緒に読みましょう。

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、神の愛が私たちに示されたのです。

私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。

Iヨハネ4:7-10